



## カタツムリは、冬はどうしてすごすの

### 殻の入り口にふたをし、冬みんする

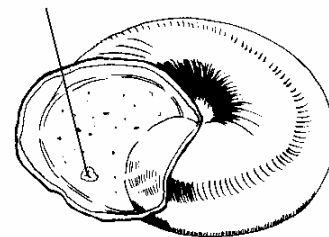
カタツムリは、外の気温によって、体温が変化する変温動物です。ですから、寒くなると、動けなくなってしまいます。秋のまだ動けるうちに、せっせとえさを食べ、寒くなる前に、あつく積もった落ち葉の下などの、暖かい所にもぐりこみます。そして、殻の入り口は、セロファンかポリエチレンのように見える、とう明な膜で、しっかりふたをしています。このとう明な膜は、カタツムリの足の裏から出るねん液が、かわいて固まったものです。カタツムリは、足を使ってじょうずに、ねん液で、殻の入り口にふたをしてしまいます。膜には、呼吸するための、小さいあなが残してあります。

この膜は、カタツムリの殻の中の水分がにげだし、乾燥してしまうのを防いでくれます。晴れた日が続く夏の間も、カタツムリは、殻の入り口に膜を張って、体の乾燥を防ぎます。寒い冬は、3枚ぐらい、膜を重ねて張っています。

### 卵や赤ちゃんカタツムリで冬をこすものもいる

秋になって、卵を産むカタツムリもいます。卵からかえった赤ちゃんカタツムリは、土の中やかれ葉の下で、じっと動かず、ねむっています。土の中で、卵のまま、冬をこすものもいます。（監修・中山 周平）

息をするためのあな



入り口に膜を張ったカタツムリ

